



週間情報



No.2938

発行日 平成29年10月3日

発行所 全国消防長会

一般財団法人全国消防協会

担当 企画部企画課 電話 03(3234)1321

両会の動き

◆ 事務局職員の人事異動

全国消防長会

平成29年10月期の本会事務局職員の人事異動について、下記のとおりお知らせします。

記

1 平成29年9月30日付異動

帰任（2名）

田村 誠 東京消防庁へ（総務部総務課総務第一係長）

井上 揚介 東京消防庁へ（企画部企画課計画担当係長）

2 平成29年10月1日付異動

着任（2名）

清水 陽一 総務部総務課総務第一係長（東京消防庁から）

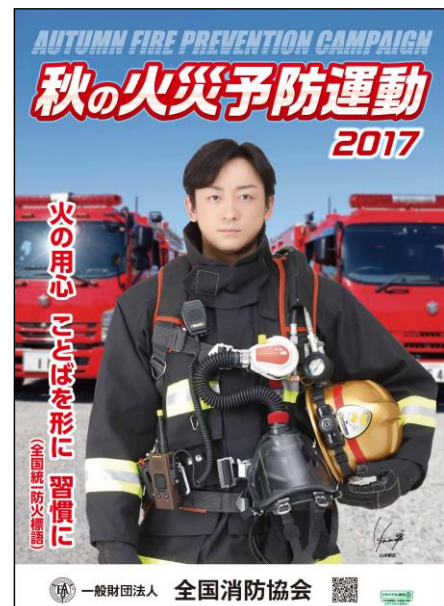
松崎 司 企画部企画課計画担当係長（東京消防庁から）

◆ 平成29年秋の火災予防運動用ポスターの配布

一般財団法人全国消防協会

一般財団法人全国消防協会では、秋の火災予防運動を迎えるにあたり、平成29年度の火災予防等広報事業の一環といたしまして、秋の火災予防運動用ポスターを作成しました。

各消防本部（局）には、平成29年10月6日（金）から順次発送しますので、ご活用ください。



◆ 指定店登録業者のご案内

一般財団法人全国消防協会

一般財団法人全国消防協会では、賛助会員の中から、会員（消防職員）に有利な条件で物品を販売またはサービスを提供できる事業者を指定店として登録し、提供する物品またはサービスの詳細をチラシ等で会員（消防職員）に適宜ご案内する「指定店制度」を平成29年4月より導入しています。

今回下記の事業者が新たに追加されましたのでご案内いたします。

ミサワホーム株式会社

所在地：東京都新宿区西新宿2-4-1

取扱品目：新築住宅、集合住宅、リフォーム等

住まいを通じて生涯のおつきあい



ミサワホーム

上記の登録業者が各消防本部（局）へチラシ送付や訪問により、各種イベント・サービス等のご案内を行うことがありますので、ご承知くださいますようお願い申し上げます。（※訪問の際は当協会発行の「指定店登録カード」を携行します。）

【問い合わせ先】

業務課

担当：^{かわの}河野、石井（健）

電話：03-3234-1321

メール：zaimu-5@fcaj.gr.jp

◆ 消防実務講習会（広報）を開催

一般財団法人全国消防協会関東地区支部

一般財団法人全国消防協会関東地区支部では、平成29年9月21日（木）、横浜市社会福祉センターホールにおいて、消防職員の知識及び能力の向上を目的に消防実務講習会を開催しました。

広報業務に従事する職員を対象に、関東地区1都9県の消防本部から204名が出席し、関係機関からお招きした講師による講義が行われました。

講習科目等は、以下のとおりです。

- 消防の広報に期待されること ～時を見据えた消防～

日本放送協会

解説主幹 山崎 登 氏

- 最近の大規模災害時の消防庁における広報の取り組み

総務省消防庁

- ・総務課政策評価広報官

篠宮 正巳 氏

- ・国民保護防災部防災課広域応援室

明田 大吾 氏



【講習会の様子】

行事

◆ 消防・救急フェアを開催 ～ 救急医療に対する正しい理解と認識の向上を目指して ～

城陽市消防本部（京都）

城陽市消防本部では、平成29年9月9日（土）、市内公共施設の文化パーク城陽において、消防・救急フェアを開催しました。

救急医療週間の行事の一環として、市民に対し応急手当の普及・啓発、予防救急の大切さや救急車の適正利用について広く広報し、「安心して暮らせるまちづくり」の構築を目的として開催しました。

当日は、ミニ救急法講習会、救急隊員によるデモンストレーション、ちびっこ救助訓練やミニ消防車の乗車体験等のイベントを行い、多くの市民の方に参加していただきました。



【フェアの様子】

◆ 救急フェアを開催 ～ JR職員、大学生とともに～

明石市消防本部（兵庫）

明石市消防本部では、平成29年9月9日（土）、パピオス明石において、「明石市救急フェア」を開催しました。

特設ステージでは、「救急車の適正利用」をテーマに、ご当地アイドルYENA☆（イエナ）とのクイズトークやミニコンサートが行われ、会場内体験コーナーでは、JR西日本株式会社、兵庫県立大学ライフサポートチームによる心肺蘇生法の説明が行われ、実際に多くの来場者にも体験していただきました。

また、マスコットキャラクターの「時のわらし」「パパたこ」「イコちゃん」も登場し、消防やJRの制服を着て写真撮影するブースでは子ども達にも楽しんでいただき、「救急」について多くの方に啓発できました。



【フェアの様子】

◆ 「もりまち消防ふれあい広場」を開催

森町消防本部（北海道）

森町消防本部では、平成29年9月10日（日）、当消防本部において、「もりまち消防ふれあい広場」を開催しました。

当日は、好天にも恵まれ、約600人と過去最多の来場者となり、救助訓練やポンプ車からの放水など、体験コーナーには行列ができる賑わいとなりました。さらに今回は、道南ドクターヘリの見学会を行い、たくさんの来場者から好評をいただきました。



【ふれあい広場の様子】

◆ 「救急ミニフェス」を開催

海部東部消防組合消防本部（愛知）

海部東部消防組合消防本部では、平成29年9月10日（日）、あま市美和文化会館において、「救急ミニフェス」を開催しました。

このイベントは、救急の日の啓発事業の一環として、救急業務に対する理解、応急手当に関する知識及び技術を広く地域住民に知っていただくことを目的として開催しました。

当日は、血圧測定、救急車展示、応急手当及び救急資器材取り扱い体験のほか、親子で記念キーホルダー作成などが行われました。

また、地域密着のクローバーTV及びエフエムななみ（77.3MHz）による協力もあり、たくさんの地域住民に対して、救急業務及び応急手当の啓発を図ることができました。



【ミニフェスの様子】

◆ 「救急フェスタ2017」を開催

宝塚市消防本部（兵庫）

宝塚市消防本部東消防署では、平成29年9月10日（日）、救急医療週間に伴う救急の日の啓発イベントとして、「救急フェスタ2017」を開催しました。

イベントは、心肺蘇生法体験、AED体験、応急手当体験、救急隊によるデモンストレーション、車両展示、ミニ車での写真撮影、バルーンアート、スピードくじなど、盛りだくさんの内容となりました。

当日は気持ちのいい秋晴れのなか、約500名の方々に来場していただき、来場者の方々から「デモンストレーションがかっこよかった。」「また来年も来たい。」などの声が聞かれ、市民の救急車の適正利用や応急手当、救急業務に対する理解を深めることができました。



【フェスタの様子】

◆ 救急艇フェスティバルを開催

高松市消防局（香川）

高松市消防局では、平成29年9月10日（日）、救急艇を係留している桟橋周辺において、救急艇フェスティバルを開催しました。

イベントは、救急艇への乗船、ミニ消防車や顔抜パネルでの記念撮影、各種車両展示、心肺蘇生体験などで、特に消防車両からホースを延長し、防火衣とヘルメットを装備した子ども達の放水体験は、長蛇の列となりました。

このイベントに参加した市民からは、「また参加したい。」という声も多く、普段できない事を体験できるとあって大好評でした。今後も、消防に対する理解と認識を深めてもらえるような取り組みを行っていきます。



【フェスティバルの様子】

◆ 「救急フェア2017」を開催

宇城広域連合消防本部(熊本)

宇城広域連合消防本部では、平成29年9月10日(日)、イオンモール宇城において、救急医療及び救急業務の普及啓発を目的として「救急フェア2017」を開催しました。

「蘇生戦隊AEDマン」と銘打って、戦隊キャラクターに扮した職員によるデモンストラーションには、ご来場の皆様から大きな声援をいただきました。

宇城市消防団女性分団の応急手当普及員とAEDマンによる救急法体験コーナーや、救急隊員の装備品展示、救急隊の使用資機材及び九州北部豪雨活動状況写真のパネル展示、風船バルーンアートコーナーなど盛りだくさんの内容となりました。



【フェアの様子】

訓練・演習

◆ 分娩対応訓練を実施

春日井市消防本部(愛知)

春日井市消防本部では、平成29年7月31日(月)、8月22日(火)及び9月4日(月)、春日井市民病院において、分娩事案への対応能力の向上を目的として、春日井市民病院の助産師を講師に招き、分娩対応訓練を実施しました。

この訓練は、救急現場において頻度の少ない分娩事案について、分娩介助、臍帯及び胎盤の処置、出血時の対応、新生児の管理等の内容で実技訓練を実施しました。

この訓練により、分娩に関する知識及びスキルを習得することができ、隊員間の連携強化を図ることができました。



【訓練の様子】

◆ 小学校引渡し訓練に併せて親子参加の防災訓練を実施

東京消防庁（東京）

東京消防庁町田消防署では、平成29年9月4日（月）、管内にある私立和光鶴川小学校において、全校生徒引渡し訓練の機会を捉え、親子参加型の防災訓練を実施しました。

昨年、町田消防署で実施した「小学生の保護者に対する防災訓練に関するアンケート調査」の結果を踏まえ、実際に市民の方が求めている内容に則した訓練を提案したところ、快く承諾され実現に至りました。

当日は、全校生徒約400名と生徒保護者約500名が参加して、まちかど防災訓練車及び訓練用消火器等を活用した初期消火訓練や煙体験訓練を行うとともに、教室で震災の映像を流し、家具類の転倒・落下・移動防止対策の必要性や東京で地震が起きた際の火災の危険性について講話を行い、参加者の視覚や聴覚に効果的に訴えました。

参加者からは、「初めて防災訓練を行ったが防災を考えるいい機会になった。」、「地震の怖さを痛感した。」等の今後の防災に関する前向きな意見が多く聞かれるとともに、副校長先生からは、「今回初の試みで保護者の反応等も心配でしたが、感謝の声が多く、ほっとしました。来年は是非、系列の幼稚園でも引渡し訓練をやってほしい。」とあり、今後にも繋がる訓練となりました。



【訓練の様子】

◆ 海上保安部と合同で大型クルーズ船事故対応訓練を実施

うるま市消防本部（沖縄）

うるま市消防本部では、平成29年9月19日（火）、中城新港東ふ頭において、「大型クルーズ船事故対応訓練」を実施しました。

この訓練は、大型クルーズ船の寄港回数が増えていることを踏まえ、中城海上保安部と合同で巡視船を大型クルーズ船にみたく、航行中のクルーズ船内で火災が発生し、乗客等約150名の負傷者が出たという想定で行いました。

訓練には19関係機関、総勢400名が参加し、海上保安部ヘリによる負傷者の吊上げ救助や梯子車による消火活動、また、救急隊と医療機関による多数傷病者のトリアージ等を実施しました。

訓練を通して、消防相互応援及び各関係機関と緊密な連携した協力体制を確認しました。



【訓練の様子】

◆ 警防活動技術訓練を実施

南越消防組合消防本部（福井）

南越消防組合消防本部では、平成29年9月19日（火）及び20日（水）、解体が決まっている越前市武生中央公園の旧体育館と同市青年センターにおいて、警防活動技術訓練を実施しました。

体育館では、鉄扉の破壊訓練やブリーチング訓練を実施し、厚さ約15cmのコンクリート壁に1辺約90cmの三角形の開口部を設定し、活動要領等の確認を行いました。

また、青年センターでは、耐火建物での火災を想定し、濃煙内への進入及び検索要領、防火戸等の消防設備が作動した状況での活動要領の確認を行いました。

今後も、警防技術の向上に努め、いかなる時でも各種災害に対応できるよう取り組んでいきます。



【訓練の様子】

◆ 警察機関と合同で山岳救助訓練を実施

浜松市消防局（静岡）

浜松市消防局では、平成29年9月19日（火）、山間部を管轄する天竜消防署管内において静岡県警察本部と合同で山岳救助訓練を実施しました。

この訓練は、秋の行楽シーズンを迎えるにあたり、ハイキングや登山に起因する事故が懸念されるため、関係機関との連携・協力体制の確立及び山岳救助隊の技術の向上を図ることを目的として行いました。

訓練終了後には検討会を行い、訓練の反省点等について議論することで、更なる関係機関との連携強化を図りました。



【訓練の様子】

◆ 震災対応訓練を実施

衣浦東部広域連合消防局（愛知）

衣浦東部広域連合消防局では、平成29年9月1日（金）及び6日（水）、刈谷市の協力のもと、解体予定の学校を使用して震災対応訓練を実施しました。

活動方法の統一及び技術の向上を目的に、横方向のブリーチングを課題とし、訓練経験のある職員が未経験の職員に対して基礎的な内容を教養し、さらに実践させることで、活動環境、作業効率等の諸課題を再認識することができ、今後の検討項目を明確にする機会となりました。

今回の訓練を踏まえた課題として、「効率的な活動指示」、「騒音環境でのコミュニケーション方法」及び「資器材使用時の負荷軽減」があげられました。



【訓練の様子】

◆ 4機関合同NBC災害対応訓練を実施

熊本市消防局（熊本）

熊本市消防局では、平成29年9月20日（水）、陸上自衛隊健軍駐屯地において、自衛隊、警察本部、日本赤十字社との4機関合同によるNBC災害対応訓練を実施しました。

今まで、2機関（例：自衛隊と消防、警察と消防など）における合同訓練は実施してきましたが、今回は有事の際に対応する機関が一堂に会したということで、「現地連絡調整所」を設置し、発災から収束に至るまでの一連の活動に併せ各機関との役割調整等の会議も平行して実施しました。関係機関の連携強化につながる実践に即した訓練を行うことができました。

今後も、各種災害に円滑に対応できるよう、関係機関の連携強化を図ってまいります。



【訓練の様子】

研 修 等

◆ 埼玉県ドクターヘリ事後事例検証会を実施

行田市消防本部（埼玉）

行田市消防本部では、平成29年9月8日（金）、「救急の日」の職員研修として、埼玉医科大学総合医療センター高度救命救急センターより、埼玉県ドクターヘリフライトドクターとフライトナースを招き、ドクターヘリ事後事例検証会を実施しました。

検証会では、ドクターヘリと連携した救急活動が発表された後、職員による活発な意見交換と、フライトドクターとナースにより医学的観点からの検証が実施されました。

今後も、ドクターヘリの有効活用について検討するとともに、ドクターヘリの利点を最大限に生かした連携活動を実施し、救命率の向上を目指していきます。



【検証会の様子】

そ の 他

◆ 119番受信時における課題改善のための管内住民への普及啓発動画を制作

駿東伊豆消防本部（静岡）

駿東伊豆消防本部通信指令課では、この度、平成28年度の119番受信状況から抽出された課題の改善を目的として、管内住民向けの普及啓発動画を制作し、平成29年9月1日（金）から当消防本部HP（<http://www.suntoizufd119.jp/index.html>）にて公開しました。

動画のテーマは、「1秒でも早く！あなたに安心・安全を届けたい！」として、災害地点の住所が分からない場合における119番通報要領をはじめとして、その他、3点の課題に対し、管内住民へお願いする内容となっております。

この動画は、今後、各種消防関連事業での活用や、管内を構成する市町や医師会、ケーブルテレビ等と連携しながら普及啓発を図り、119番の適正利用について広報していきたいと考えております。



【動画紹介】



【動画内容】

消防庁通知等

◆ 消防に必要な水利施設の適切な維持管理について（9月25日、消防消第222号）

消防庁消防・救急課長より、各都道府県消防防災主管部長、東京消防庁・各指定都市消防長あてに次のとおり通知されましたのでお知らせします。

先般、火災現場において、消防に必要な水利施設（深井戸地上式採水口）が腐食等の不具合により使用できなかった事案が発生しました。

消防水利については、消防機関が消火活動を行う上で最も重要、かつ緊急に使用する施設であり、常時使用できるように全ての消防水利を維持管理しておく必要があることから、下記事項に留意の上、再発防止の徹底が図られますようお願いいたします。

都道府県にあっては、貴都道府県内の市町村（消防事務を処理する一部事務組合等を含む。）に対してその旨周知されるようお願いいたします。

なお、本通知は、消防組織法（昭和22年法律第226号）第37条の規定に基づく助言として発出するものであることを申し添えます。

記

1 点検のための巡回監視を徹底すること。

消防法（昭和23年法律第186号）第20条において、消防水利の設置、維持及び管理の主体を明確化しており、また、消防水利の基準（昭和39年消防庁告示第7号）第7条においては、消防水利を常時使用しうるよう管理することについて定めているところです。

巡回監視の頻度については、消防水利の設置箇所、種類によって異なるが、長期未実施の消防水利については、速やかに実施すること。

2 外観に異常が疑われる場合は、吸水や放水などの機能点検も実施すること。

なお、点検により異常が判明した場合は、速やかに改修を行うこと。

3 点検について、その実施内容や進捗が管理できるよう記録しておくこと。

○ 全文は、消防庁ホームページ

(http://www.fdma.go.jp/concern/law/tuchi2909/pdf/290925_syo222.pdf) に掲載されています。

【問い合わせ先】

消防・救急課

担当：仙波課長補佐、伊藤係長、喜多事務官

◆ 平成29年度消防防災科学技術賞受賞作品の決定（9月29日、消防庁）

この度、平成29年度「消防防災科学技術賞」の受賞作品を決定しました。

本表彰制度は、消防防災機器等の優れた開発・改良を行った方、消防防災科学に関する優れた論文を著した方、原因調査に関する優れた事例報告を著した方を消防庁長官が表彰することにより、消防科学技術の高度化と消防防災活動の活性化に資することを目的として、平成9年度から実施しています。

平成29年度においては、全国の消防機関、消防団、消防機器メーカー等から総計90編（機器等の開発・改良44編、科学論文22編、原因調査事例報告24編）の応募があり、選考委員会（委員長 亀井浅道 元横浜国立大学特任教授）による厳正な審査の結果、別添の29編を受賞作品として決定しました。

表彰式は、下記の日時・会場にて執り行います。また、11月29日(水)、30日(木) ニッショーホール（日本消防会館）において開催される第65回全国消防技術者会議（消防研究センター主催）の中で、受賞者による、作品の口頭または展示による発表が行われます。

記

（表彰式）

- ・日 時 平成29年11月29日(水) 11時40分から
- ・会 場 ニッショーホール
東京都港区虎ノ門 2-9-16

○ 全文は、消防庁ホームページ

(http://www.fdma.go.jp/neuter/topics/houdou/h29/09/290929_houdou_1.pdf) に掲載されています。

連絡先 消防庁消防研究センター 研究企画室：細川・渡邊 TEL 0422(44)8331

◆ 「平成30年度危険物安全週間推進標語」及び「平成29年度危険物事故防止対策論文」の募集（10月2日、消防庁）

消防庁では、危険物を取り扱う事業所における自主保安体制の確立を図り、危険物の保安に対する意識の高揚及び啓発を推進するため、「平成30年度危険物安全週間推進標語」及び「平成29年度危険物事故防止対策論文」を募集します。

1 平成30年度危険物安全週間推進標語

消防庁では、毎年6月の第2週を「危険物安全週間」とし、危険物の保安に対する意識の高揚及び啓発を全国的に推進しています。この「危険物安全週間」を推進し、危険物の保安に対する意識の高揚を図るため、「危険物安全週間推進標語」を募集します。

募集期間 平成29年10月2日（月）～平成29年12月11日（月）

募集要項 どなたでも応募できます。

表 彰 入賞者には、賞状及び副賞又は記念品を授与します。

最優秀作は危険物安全週間推進ポスター等に活用する予定です。平成30年度のポスターモデルは、車いすテニス選手の上地結衣さんを予定しています。

2 平成29年度危険物事故防止対策論文

近年、危険物施設における事故発生件数は高止まりの状況であり、危険物関係団体・業界や消防関係行政機関では、事故の発生防止に積極的に取り組んでいます。

こういった危険物の事故防止対策を推進するため「危険物事故防止対策論文」を広く募集します。

募集期間 平成29 年10 月 3 日（火）～平成30 年 1 月31 日（水）
募集要項 どなたでも応募できます。詳細は別添 2 を御覧ください。
表 彰 入賞者には、賞状及び副賞を授与します。

※危険物安全週間推進標語及び危険物事故防止対策論文各賞の表彰式は、危険物安全
週間中に東京で開催される危険物安全大会において行います。

連絡先
消防庁危険物保安室
菊地係長、篠崎事務官
TEL 03-5253-5111(代表)
TEL 03-5253-7524(直通)
FAX 03-5253-7534

○ 全文は消防庁ホームページ
(http://www.fdma.go.jp/neuter/topics/houdou/h29/10/291002_houdou_1.pdf) に掲載されてい
ます。

情報提供

◆ 第 2 6 回全国救急隊員シンポジウムを開催

千葉市消防局（千葉）
一般財団法人救急振興財団

千葉市消防局と一般財団法人救急振興財団は、平成 2 9 年 1 1 月 2 1 日（火）、2 2 日（水）の
2 日間、千葉県千葉市において、下記のとおり標記シンポジウムを開催します。

記

- 1 開催日時
平成 2 9 年 1 1 月 2 1 日（火） 9 : 3 0 ～ 1 7 : 3 0（開場・受付 8 : 3 0 ～）
平成 2 9 年 1 1 月 2 2 日（水） 9 : 0 0 ～ 1 2 : 4 0（開場・受付 8 : 0 0 ～）
- 2 開催場所
幕張メッセ 国際会議場・国際展示場（展示ホール 8）
- 3 メインテーマ
「救命のレガシーを次世代に！」 ～「海辺のまち千葉」から発展へと導く～
- 4 プログラム
【 1 1 月 2 1 日（火）】
 - (1)特 別 講 演「ショックにおける最新のトピックス」～ショック傷病者の適切な対応能力を高める～
 - (2)教 育 講 演 1「消防庁における救急活動プロトコルの解説」
 - (3)教 育 講 演 2「救急隊員のメンタルヘルス」～救急業務等で発生するストレス対策を考える～
 - (4)シンポジウム 1「救急需要対策における諸課題Ⅰ」～救急需要側への対策と展望を考える～
 - (5)シンポジウム 2「多種多様な場面における多職種連携Ⅰ」～大規模災害における連携対応を考察する～
 - (6)シンポジウム 3「救急需要対策における諸課題Ⅱ」～転院搬送ガイドラインの現況と展望を考える～
 - (7)シンポジウム 4「多種多様な場面における多職種連携Ⅱ」～集団災害の連携対応を考察する～
 - (8)シンポジウム 5「救急需要対策における諸課題Ⅲ」～救急応需側の対策と展望を考える～
 - (9)シンポジウム 6「各地域における応急手当の現状と課題」～より多くのバイスタンダー育成を目指して～
 - (10)シンポジウム 7「多種多様な場面における多職種連携Ⅲ」～教育・訓練での連携強化を考察する～
 - (11)パネルディスカッション 1「マスギャザリングイベントにおける救急対応」～2020 年 東京オリンピック・パラリンピックに向けて～
 - (12)パネルディスカッション 2「女性救急隊員のあり方を考える」～女性の生涯活躍社会を考察する～
 - (13)パネルディスカッション 3「各地域における救急業務等に関する諸課題Ⅰ」～全国民への公平なサービスを目指して～
 - (14)パネルディスカッション 4「救急現場における D N A R を考える」～救急現場での生命倫理と医療倫理を考える～

- (15)パネルディスカッション 5 「バイスタンダーのサポートに関する現状と諸課題」～安心して応急手当に着手できる社会を目指す～
- (16)市民公開講座 「いのちを守る教育」～千葉市を日本のシアトルに！～
- (17)スキルトレーニング 1 「集団災害・多数傷病者対応」～災害時の初期対応要領を学ぶ～
- (18)スキルトレーニング 2 「気道確保施行時のキーポイント」～迅速・的確な気道確保施行に向けて～
- (19)スキルトレーニング 3 「静脈路確保成功のキーポイント」～静脈路確保の成功率向上にむけて～
- (20)一般発表 1～16 (発表演題のスライドはポスター化し終日展示)

【11月22日(水)】

- (1)シンポジウム 8 「回転翼航空機の効果的運用」～ドクターヘリ・防災ヘリ等のより一層の活用に向けて～
- (2)シンポジウム 9 「指導救命士シンポジウム」救急現場での効率的観察を求めて～救急搬送データからの検討～
- (3)シンポジウム 10 「救急業務における危機管理」～様々なトラブルに発展させないための対策を考える～
- (4)パネルディスカッション 6 「各地域における救急業務等に関する諸課題Ⅱ」～地域格差のない教育体制を目指して～
- (5)パネルディスカッション 7 「ICTを活用した救急業務の現状と展望」～救急業務の更なる効率化を目指して～
- (6)パネルディスカッション 8 「通信指令員教育の現状と課題」～ディスパッチの質向上を目指して～
- (7)パネルディスカッション 9 「PA連携の現状と課題」～更なる救命効果向上を目指す～
- (8)スキルトレーニング 4 「周産期における救急対応」～周産期救急現場での重要ポイント～
- (9)スキルレクチャー 「小児における救急対応」～小児救急現場での重要ポイント～
- (10)総 合 討 論 「救命のレガシーを次世代に！」～救急業務の更なる発展を目指して～
- (11)一般発表 17～24 (発表演題のスライドはポスター化し終日展示)

5 その他

プログラムの内容は、今後、追加・変更等が生じることが考えられますが、最新の情報は、第26回全国救急隊員シンポジウム専用ホームページ (<http://26chiba99sympo.com/>) において運営に関する情報も含め、随時更新して公開しておりますのでご参照ください。

◆ 平成29年度危険物事故防止対策論文募集

消防庁・危険物保安技術協会

危険物を取り扱う事業所や消防機関・行政機関等で取り組まれている事故防止や安全対策の活動などについて広く論文を募集します。積極的なご応募をお待ちしております！

1 論文の内容

危険物に係る事故防止や安全対策に関するもので、次のようなもの

- | | |
|--------------|-------------------------|
| ①提言、アイデア、経験等 | ②職場等の安全対策 |
| ③事故の拡大防止 | ④事故防止に係わる知見の蓄積・教育方法 |
| ⑤事故の分析 | ⑥安全対策技術 |
| ⑦危険性評価手法 | ⑧危険物、少量危険物及び指定可燃物に係わる安全 |
| ⑨安全の科学技術 | ⑩事故防止対策・安全対策に関するその他のもの |

2 応募資格 特に制限はありません。どなたでも応募できます。

3 応募締切 平成30年1月31日（水）必着

4 選考方法

学識経験者、関係行政機関の職員等による審査委員会において、厳正な審査を行います。

5 賞

消防庁長官賞	賞状及び副賞（20万円）	<2編以内>
危険物保安技術協会理事長賞	賞状及び副賞（10万円）	<2編以内>
奨励賞	賞状及び副賞（2万円）	<若干名>

※ 副賞は危険物保安技術協会からお渡しいたします。

受賞の表彰式は、危険物安全週間（平成30年6月の第2週）中に開催される、危険物安全大会で行います。

6 応募方法

ア 論文は、日本語で書かれたもので未発表のものに限ります。ただし、限られた団体、組織内等で発表された場合は応募可能とします。（一部に限り、既発表の部分を使用する場合は、その旨を本文中に明記してください。）受賞論文は、危険物保安技術協会の機関誌とホームページに発表されますので、必要に応じて関係者の事前の了解を取ることをお願いします。また、著作権等の問題を生じないようにご注意ください。

イ A4（字数換算：1ページあたり40字×40行程度）1枚以上10枚以内程度としてください。

なお、図表及び写真は、文中への挿入、本文と別に添付のいずれも可能です。ただし、本文と別に添付する場合に、字数換算をA4（1ページあたり1,600字程度）で行い、全体を10枚相当分以内程度としてください。

ウ 論文の概要を添付してください。

エ 論文は、「論文タイトル」、「氏名（ふりがな）」、「連絡先（住所、電話番号、FAX番号、E-mailアドレス）」及び受賞論文発表時に明記する勤務先等がある場合の「勤務先名称及び所属」を記載した用紙を添付のうえ次のあて先（E-mail可）までお送りください。

オ 共同で取り組んでいる活動の場合には、連名の応募も可とします。

カ 論文は、返却いたしません。

7 あて先及び問い合わせ先

危険物保安技術協会 事故防止調査研修センター

〒105-0001 東京都港区虎ノ門四丁目3番13号 ヒューリック神谷町ビル

Tel 03-3436-2356 Fax 03-3436-2251 <http://www.khk-syoubou.or.jp/>

協賛	全国消防長会、一般社団法人日本化学工業協会、石油化学工業協会、石油連盟 電気事業連合会、一般社団法人日本鉄鋼連盟、一般社団法人日本損害保険協会 公益社団法人日本火災学会、全国石油商業組合連合会（順不同）
----	---

◆ 着ぐるみ「とりカエル」貸出について

一般社団法人日本火災報知機工業会

一般社団法人日本火災報知機工業会では、平成26年度よりキャラクター「とりカエル」を住宅用火災警報器の交換促進の啓発としてホームページ（スペシャルサイト）およびリーフレット等に掲載を行ってきました。

今回、多くの消防本部様からご要望のありました、キャラクター「とりカエル」の着ぐるみを2体制作いたしましたので、住宅用火災警報器の交換促進の啓発イベント等でご使用いただければ幸いです。

貸出受付開始時期については、10月初旬からと考えておりますので、下記問い合わせ先へご連絡ください。



【着ぐるみの様子】

【問い合わせ先】

一般社団法人日本火災報知機工業会
担当：技術部 佐島 和夫

※ 消防庁各課室の直通電話番号は（<http://www.fdma.go.jp/neuter/about/tel.html>）に掲載されています。

週間情報では、各本部の身近な情報を掲載していますので情報をお寄せ下さい。

週間情報への投稿は企画課へ！

TEL 03-3234-1321 FAX 03-3234-1847 E-mail : weekly@fcj.gr.jp